

東京2020 オリンピック聖火リレー

新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受けて、昨年
から1年延期となっていた東京2020オリンピック
が7月23日に開幕しました。

トーチキスによる点火セレモニー

開幕に先立ち行われた、全国各地を1万人のランナーが繋ぐ聖火リレー。神奈川県では公道でのリレーが中止となりましたが、6月28日～30日の3日間、横浜赤レンガ倉庫を始めとする3つの会場で、「トーチキス」による点火セレモニーが行われました。6月29日、相模原市の橋本公園で行われた点火セレモニーには、町内から聖火ランナーに選ばれた野口博史さん(田代)が参加。聖火ランナーたちが各々の気持ちをトーチに込め、炎をつなぐその光景の中に、野口さんの素敵な笑顔がありました。



トーチキスに臨む野口さん(中央)

野口さんにセレモニーの感想を伺いました



野口さん

「本音を言えば、聖火を持って走ることができなかったのは大変残念です。しかし、セレモニーの当日は、気持ちが高ぶっていたことも確かです。ステージ裏で自分のトーチを渡されたときはその重みに驚き、出番を待っている間は、聖火をつなぐことの重みを感じていました。トーチに聖火が灯り、ランナーに選ばれてから1年6カ月あまり待ち続けた瞬間が訪れたときには、感動を覚えました。『地域の子どもは地域で育てる』という思いで25年間、青少年健全育成会などさまざまな立場から、地域の子どもたちやボランティアの皆さんと関り、今回、その方々にエールを送るつもりで聖火ランナーに申し込みました。この貴重な経験を生かして、これからも地域の子どもたちのために活動していきたいと考えています」

聖火ランナーの先輩からメッセージ

昭和39年の東京オリンピックで聖火ランナーを務めた高野富夫さん(春日台)から野口さんへ、メッセージが送られました。「私が聖火ランナーを務めて、いちばん感動したのは、国立競技場で最終ランナーが聖火台に火を灯したときでした。野口さんには前向きな気持ちを胸に、聖火をつないでほしいと思います」
半世紀以上の時を経て、お二人の思いが込められた聖火が、いまオリンピックの聖火台に灯っています。



高野さん

野口博史さんが町長を表敬訪問



野口さんと小野澤町長
(撮影時のみマスクを外していただきました)

7月8日、野口さんが小野澤町長を表敬訪問し、点火セレモニーの様子や、日々の社会活動について懇談されました。

田代小学校の児童が聖火リレーを体験

7月18日、野口さんも参加し、田代運動公園ジョギングコースで、田代小学校の児童36人が聖火トーチを持ってリレーを行う「田代区聖火リレー」が開催されました。(主催は田代区青少年育成会)
参加した児童たちは「トーチが重くて大変だったけど、すごく楽しかったです」と晴れやかに話していました。



野口さんにトーチを渡す最終ランナー